

当事者ヒアリング（こくふ児童館）

【日時】 令和6年2月13日（火） 午前11時30分～12時00分

【場所】 こくふ児童館児童室(1)

【出席】 こくふ児童館母親クラブ 保護者8名、児童センター職員

【概要】

令和6年度末の「こども計画（仮称）」策定などに向け、当事者の意見聴取を求める声が根強いことなどを受け、母親クラブの行事（フルーツサンドづくり）の後に時間を取っていただき、簡単な趣旨説明の後、各自、想いを発言してもらった。

各自から発言いただいた後、向こう5年間の「計画」を作る大事な時期であることを再確認し、本日言い足りなかったこと、後日家族や友人と話す中で思いついたことなどは、市へ直接メールや児童センター職員を経由して市に伝えてもらうことを依頼して終了した。

【詳細】

○参加者 →市

○雨や雪の時、小学生が屋内で集まって遊べる場所があると良い。児童館では小さい子が多いため、大きな子は居にくい。シマヤばかりでもどうかと思う。

○子どもの身長・体重をよくチェックしている。木曜午前に支所で開催される「健康相談」の際、量ってもらっていたが、仕事を始めたため利用できなくなった。知りたいと思った時、手軽に自分で量れるようになるとよい。イオンモールなどでは身長計、体重計が誰でも使えるように置いてあるところがあるため、児童館でもそのようになるとよいと思う。

→4月から同じ部となる母子保健係が行っている事業と思われる。意見として伝えさせてもらう。

○子どものトイレトレーニングをしているが、スーパーなどでは大人用の便座しかなく、補助便座を置いていない施設がほとんどである。（シマヤでも1か所だけ）お父さんが連れて行こうとしても男性用トイレには設置がないため、オムツ交換台や補助便座を増やしてもらえるとありがたい。

○子育て支援が充実してきてありがたいが、周囲で「飛騨市の方が子育て支援に手厚いよね」といった会話を聞くことが多い。飛騨市では、子どもが保育園に入園する時に補助金が出て、必要品などの購入に充てられて助かったと言われる。

○子どもを3人設けたが、子育て中のため仕事をしておらず、食費はじめ生活費が増えたり、大きな車が要るなど経済的に困っている。生きづらさ、生活しづらさなどを多々感じるため、そういったプチストレスを緩和できると良い。

○感染症が出た時など、飛騨市に比べて高山市は広いため判断が遅くなり、子どもの登校中に（学級閉鎖を知らせる）メールが届いたりして困るといった話を聞く。

→「飛騨市と比べてどう」といった話は、市でも耳にすることがある。飛騨市では、就園・就学・進学タイミングで学用品などを買えるクーポンを配ってみえたかと思うが、高山市では、生まれた時に10万円を渡し切りとしているため、渡し方の差という面もある。課題感を持っているため、色々と考えていきたい。

○生活のためフルタイムで夫婦共働きが必要で、祖父母にも頼れないため、保育園に預けるしかない。帰宅時間の早い送迎バスは時間が合わず利用できない。子どもが寂しくないよう、少しでも長く一緒に居られ、家事などもできるように、遅い時間にもう1本送迎バスがあると助かる。

→市域が広いので、何をすることも「移動」という面では、課題の大きな地域と捉えている。

→市役所では最近、子連れ出勤という制度が導入されたり、短時間勤務といった働き方をされている人もいます。色々な取り組み方があると思うが、子育てしやすいまちづくりに向けて、いただいた意見も参考に考えさせてもらおう。

○児童手当は3歳から1万円に下がるが、3歳を超えてからの方がお金がかかるため、手厚くしてもらいたい。第3子以降の支援が手厚くなるが、第1～2子でも子育てしていることには変わらないので、支援してもらいたい。

→児童手当は国が法律に基づき行っているため、市として独自に拡充するといった事が難しく、保育料の無償化などが3歳を超える層への経済支援としてなされている。

○産まれた時に10万円もらえるのはありがたいが、先のことを考えて貯蓄に回してしまったりするため、オムツやミルク、お尻拭き、だっこ紐などを選んで使える1年間有効なクーポンになると良い。

→国の「出産・子育て応援給付金」10万円が、来年度から「ぎふっこギフト」としてクーポン化されると承知している。オムツなどの物だけでなく、一時保育やファミサポなどサービスにも使用できる。

○年子の二人の子育て中だが、買い物に行った時に、二人が一緒に乗れるショッピングカートが少なく、喧嘩になってしまう。1台で子ども二人が乗りたくなるようなショッピングカートを増やしてほしい。

→資料に「こどもまんなか社会」といった言葉も出てくるが、民間企業の方も含めて、そういった意識となるにはどうした良いかと思いながら聞かせてもらった。

○子どもが2歳を過ぎ体調を崩すようになった。電話しても国府の病院がいっぱい診てもらえず、高山の病院に行くが、自身も調子が悪いなか移動し、半日がかりで受診し、薬を受け取るなどがとても大変である。鼻水など症状が軽い場合や、薬が欲しいだけの場合など、手軽に受診できる場所があると良い。

→非常にごもつとも感じる。「こども未来部」と合わせて「医療保健部」もできる。医療政策は非常に重要なため、いただいた意見を伝え、どういったことができるのか考えてもらおう。

○土日でもオンラインで診療が受けられるようにしてもらいたい。(都会の方ではある)

→皆さんの声を市に届けてもらうことが重要と考える。こんなことと思わずに、周囲で語り合ったことなど、気軽にメールしていただければ、必ず見させてもらおう、今日は貴重な時間をいただき感謝する。

以上